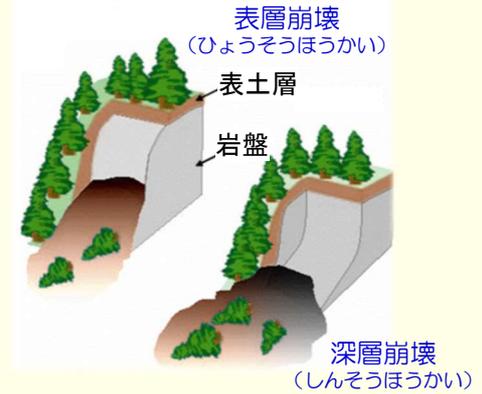


「深層崩壊」の原因を明らかにする

日本では、平均で**1年間に1,000件もの土砂災害**が発生しています。

土砂災害には、**しゃ面のくずれ方**によって「**土石流**」、「**がけくずれ**」、「**地すべり**」などに分類することができますが、**くずれる場所の深さ**で「**表層崩壊** (ひょうそうほうかい)」と「**深層崩壊** (しんそうほうかい)」に分類することができます。



「**深層崩壊**」は、その発生回数は多くないものの、深い場所で土砂がくずれるため、**ひとたび発生すると規模の大きな災害**になります。また、自治体などが公表する**ハザードマップ**では、「**深層崩壊**」による土砂災害の危険性は示されていません。

平成23年(2011年)台風第12号では、**紀伊半島**全域で大規模な土砂災害が発生し、**深層崩壊**が**72か所**も発生しました。

深層崩壊が発生した場所の中には、**くずれた土砂が谷を流れる川の対岸にまで届き、家などがこわされる**大きなひ害となった場所もありました。

また、そのうち**17か所**では、**くずれた土砂により川がせき止められ、上流側で家などが水びたし**になってしまったところもありました。



深層崩壊によってくずれた土砂が川の対岸にまで届き、ひ害が発生した場所 (奈良県五條市)



深層崩壊によってくずれた土砂が川をせき止めたことで、上流側で水びたしになった地域 (奈良県天川村)

国土交通省では、紀伊半島で発生した深層崩壊について、**ドローン**を使って調査を行いました。

その結果、深層崩壊が発生した場所の多くには、**断層**があり、地面の中には、断層によって**せき止められた地下水**があることが分かりました。



国総研では、紀伊半島で発生した深層崩壊の様子が他の場所にも当てはまるかの研究をしています。

これにより、将来的に「**深層崩壊**」が発生する可能性がある場所を明らかにし、**ハザードマップ**などの形で示すことを目指します。